



滋賀県看護協会

保健師職能委員会だより

令和3年

1月号

令和2年度合同職能集会報告

コロナ禍の中、看護職はものすごく頑張っていました！

令和2年度の職能集会は、3職能合同で10月31日（土）に開催されました。保健師、助産師、看護師の3職能が、コロナ禍の中の活動報告を行い、自分たちにできることは何かについてグループワークを行いました。参加者は、126人（うち保健師13人）でした。

それぞれの職場で使命感を強く持って、工夫しながら頑張っていることがわかりました。その様子をレポートします。

**職能集会テーマ 新型コロナウイルス感染症
この困難を 力を合わせて乗り切る
一看護の力で滋賀を元気にー**



1、県内の看護の現場の活動報告

①保健師職能から〈明石職能委員長〉

内容は前回の職能だよりに紹介していますので、ご覧ください。

②助産師職能から〈溝口職能委員長と滋賀医大産婦人科平本職能委員から〉

○妊娠期の集団指導がほぼ中止になり助産師外来で個別指導している。受講者数は低下しており、外来待合でも妊婦同士の交流が減っている。分娩期の家族の立ち合いができないため、妊婦の不安が増大している。

○陽性者の分娩を想定した部屋の準備やシュミレーションを行って感染対策を強化している。

○院内での妊産婦へのサポートを補完する産後ケア事業等に期待している。

③看護師職能 I (病院分野) 〈小森職能委員長と甲賀病院山下職能委員〉

○コロナ病棟の病床拡大に伴い、人員確保として先に各病棟からスタッフを2人ずつ出してもらって確保したが、夜勤スタッフが不足し、コロナ病棟の夜勤日を各病棟に割り当て確保した。（師長も対象）

○コロナ病棟のスタッフ確保のために看護部長が対象となったスタッフの不安を聞くとともに、宿泊所の確保や勤務後のシャワーの利用など安心して勤務できる体制を整えた。

○玄関での発熱者の確認を事務職が行うことや、患者の売店での購入や配達への支援を売店スタッフが行うなど他職種の協力体制を確保した。

○コロナ病棟通信を発行し院内スタッフへの周知を行うことで職員のモチベーションアップを図った。

○何よりも力になったのは、患者や地域の子供たちからの励ましのメッセージだった。

④看護師職能 II (訪問看護や介護施設、診療所等) <谷口職能委員長から>



○施設等では看護師として感染予防等の対応を求められるが、正しい情報が入ってくるのが遅く、また一人職種であることが多いため、正しい対応ができていないかの不安が大きかった。

○利用者や家族からの不安やクレーム、差別(送迎車に石を投げられるなど)などがある中で活動している。

○コロナの影響により、退院時指導が十分されないまま在宅となり家族が混乱されたり、面会ができないことへの家族の不安を訴えられたり、面会ができないなら在宅看取りを選択されるなどがあった。

2、保健師職能での意見交換 <テーマ：自分たちのできること、自分の組織ができること>

○それぞれの発表を聞いて、働く場所によって大変さは違うが、自分たちだけが大変だったわけではないことがわかった。知ることができてよかった。

○病院は治療の最前線なので、看護師 I は、家に帰れないままなど、生活を脅かされながらも使命感でがんばっていた。

○看護 II は地域で働く看護職として、保健師に通じるところがあり共感できた。

○医療従事者、警察、消防等(エッセンシャルワーカー)も不安の中にいる。職場で不安を言にくい雰囲気を作ってはいけない。

○普段かかわっているケースについても、コロナによってどういう影響が出てくるかをアセスメントしておかないといけない。

○乳幼児健診等の感染予防対策を考える中で、事業の見直しを行い、受付分散等によって待ち時間が少なくなる等効率的になった。

○病院では、出産に向けた集団指導ができなくなり、出産後も面会制限あり、妊産婦が不安に思っている。地域で何かできないかと思った。

<集会後アンケート抜粋>

- 看護職がどの現場においても最前線で活躍している状況を知ることができたので、私自身も今の状況を前向きにとらえて頑張っていこうという気持ちになった。
- 三職能が同じ課題解決に向かい(それぞれの役割を)考えること、(課題解決に向けて努力する)風土を醸成すること、組織のサポート体制を整えることが大切だとわかった。

報告 2020年度 地区別職能委員長会 10月20日(火) 13:30~16:30

奈良県で開催予定でしたが、ZoomによるWeb会議に変更となりました。近畿地区の各県の看護協会や保健師職能の様子は、新型コロナの影響で事業が延期や中止になるなど、通常通りの運営ができていないようでした。その中で、滋賀県の看護協会や職能委員会の活動は遅れながらも、メールやLINEを利用してなんとか頑張っていることを実感しました。また、どの府県も保健師の看護協会への加入率が低く、良い対策案を見つけていませんでしたが、看護協会での活動を可視化する

必要性があるのではないかと、活動を始めるところがありました。

- 新任期保健師（A1レベル）研修会におじゃましました -

9月25日、11月4日の二日間にわたり、滋賀県立大学人間看護学部 馬場文准教授のご指導のもと、新任期保健師10名が地域診断を学びました。

研修期間中に実際に地域に出向き、ケースと出会い地域カルテに落とし込む作業をすることで、様々な気づきがあったようです。

「今までぼんやり感じていたことが、書いてみることで事実なんだと気づいた」「あのケースとこのケースが同じことを言っているな、地域課題かも知れないと気づき、意図的に情報収集するようになった」といった声が聞かれました。

『個人を中心にしていたのが、地域・集団という視点で見ていくようになった』という意見ありましたが、このあと、どう具体的な言葉や体験で語れるようになっていくかは、今後のOJTが大きく関わってきます。新任期保健師さんの可能性をみんなで伸ばしていきたいですね。



- お勧めBOOKS 読んでみたら良かったよ! -

「愛着障害 - 子ども時代を引きずる人々 -」／岡田尊司著 光文社新書

私は、以前保健所で精神保健業務を担当していました。その時に関わった「自傷行為を繰り返す人」「支援者とのかかわりを次々切っていく人」たちが、どうしてそのような行動や反応を示すのかということに、関心がありました。

彼らの生活歴を聞き取ると、生育過程において親の離別、虐待など厳しい生活体験をしていることが多いことに気づきました。その人がうまく人や社会と付き合いながら生きていくには、やはり安定した親子関係が基盤にないと困難であることが多いのではないかと、そこが満たされないと一生に目に見えないハンディキャップを背負って生きていくのではないかと、そうぼんやりと思っているときに、この本に出会いました。

本書では、愛着障害が生まれる背景と要因、特性と病理、愛着スタイルごとの傾向や対応方法、克服法などが事例を通し説明されており、その人が抱える「生きづらさ」と愛着の問題の関連について理解することができます。

その人を理解するための、一つの考え方を得ることができると思いますので、おすすめします。

発行：公益社団法人 滋賀県看護協会（保健師職能委員会）
Tel：077-564-6468